

すまいるたん



第18号
平成18年

12月3日

三ノ輪橋を支える人々 「荒川バラの会」

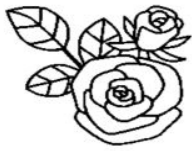


「プリンセス アイコ」「クイーン エリザベス」「ダイアナ プリンセス オブ ウェールズ」など、三ノ輪橋

駅のバラの種類は約30種類近くあります。4年前、450株を植えました。「古河庭園のバラより美しくバラが咲いている」

平成9年には、見事なバラが咲き揃う都内唯一の都電が走る停留所「三ノ輪橋」は「関東の駅百選」に選ばれています。また、平成17年には、日本宝くじ協会の「花の観光地づくり大賞」も受賞しています。荒川車庫の先まで都電沿線には1万2千本のバラがあります。春のバラは大きく咲き、秋のバラは細かいけれども香りがあります。

荒川区の公園緑地課と連携し、4年前から三ノ輪橋と町屋、荒川遊園のバラを守り育てているのが、「荒川バラの会」です。



岩崎さん・野村さん・小林さん達は、第1と第3土曜日、ボランティアの仲間15人近くと三ノ輪橋に集まり、花の手入

れをしています。主に雑草とりや、花の咲がら切りを行っております。バラの土は肥料が効いているので雑草も沢山生えるためにしっかり草取りします。花の咲がら切りは、実が出来て養分が行ってしまふのを防ぐため、枯れた花がらを摘み、花の下から3枚の葉のところまで切ります。5月末から11月にかけて続けて良い花を咲かせる為に行います。咲き終わりに近づいた花の枝を切ると、そこから花芽が伸び次の花が咲いてくれます。

剪定の講習会を何回か受けましたが、皆さん素人です。剪定は、年2回します。5月から6月にかけてのバラの咲き終わった時に茎を3分の1に詰め、2月もう一度茎を3分の1に詰め、寒肥を施します。この時期に剪定をして枝を整理することで伸ばしたい芽に養分を蓄えられ、沢山の花が咲きます。

芽が出てから蕾が色づく間の水切れは、厳禁です。バラの生育に無くてはならないものが、水です。

芽、葉、枝は水によって育てられているため、多くの水を必要とします。また、肥料を吸収させる役割も果たしているのので、肥料だけ与えていても効果が有りません。

その時々に応じてばらの水遣りは、手

があいた人がやっています。いもむし・毛虫・アブラムシ・ハダニ駆除殺虫剤散布、うどん粉病・黒点病薬剤散布等は、公園緑地課が担当しています。

「南千住は歴史と文化の街、自然ときれいにしなくちゃいけないという心が育つ環境づくりをしたい」

「植物と一緒にだと自然と疲れも忘れる」
小林さんは、おっしゃっています。

当初は苗木を荒らされたり、立て札をいたずらされたりしましたが、今は少なくなつたそうで、男性も花に興味を持たれる方が増え「きれいですね」と声をかけられることがあるようになりました。

小林さんは、天王公園でも、岩本さん、高橋さんと共に「花の友」と言うボランティア活動もやっています。

皆さんも、三ノ輪橋のばら栽培にも参加してみませんか。

花のお世話をやってみたい方、荒川区の公園緑地課 電話 (3802) 3111 にご連絡下さい。

剪定はさみと皮手袋が支給されます。

